

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104365
法人名	有限会社 ベストケアライフ
事業所名	グループホーム かわかみ (山の家)
所在地	鹿児島県鹿児島市川上町1854番地1 (電話) 099-243-7735
自己評価作成日	令和4年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で自由に外出・他者との接触が叶わない中で、立地的環境より中庭を活かして外気と触れ室内だけの活動に留まらないよう工夫をしている。家族との接触も、ワクチン接種の有無を起点に、距離感の保持、換気の継続、接触させない、等条件下により対面式面会を行っている。流行数によっては、オンライン面会のみ限定する時期も設けるなど柔軟に対応している。医療面に関しては罹り付け医との繋がりを大切にしつつ、入居者の方の身体状態の推移を見ながら様々な視点で、ご本人のその時々適切な支援の必要性を都度面談などを通して家族、医療等とすり合わせを行っている。自由に施設内への入室が叶わない家族の触れ合いへ寄り添う為に、状態の確認、状況報告等を月の便りだけでなく、オンラインのツールを使う等工夫を凝らし静止画・動画等で状態が判り易いよう報告の手段を考慮している。入居者側のケアにおける意思疎通、統一がなされるように、職員のレベルアップを図った研修内容をインシデント報告等を活かしながらその時その時に盛り込むよう計画している。受動的な研修だけでなく、実地研修も少しずつだが増やしていきながら、体感してスタッフ間で認識のずれが無いようにスタッフの声も盛り込みながら繰り返して基礎を定着できるような学びの場を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を皆で目指し、入居者が安心して暮らせるように職員間で都度話し合い共有しながら支援を行っている。認知症でも自分の気持ちをお話しされたり、意見を持っておられる事を認識する。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	コロナ禍である為に、近隣との付き合いは最低限であるが町内会に加入し世間での様子や防災事情など相互的な協力体制であるよう交流は継続している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ禍で、積極的に地域との接点を見出すような事は難しいが、町内会を始めとして認知症をより知っていただけるような取り組みとして、相談窓口になれるように常々話題にはするようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業のサービス内容に関して、利用者だけでなく、家族・地域住民の方々、状況に応じて行政的立場の方々に参加いただき、取り組んでいる内容を知っていただく事から努めている。その中で出る意見（現在としては家族とのやり取りが主流であるが、より理解していただけるように具体例を出しながら意見交換を行い、事業運営に活かせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村（地域包括支援センター含む）とは事象ごとに尋ねたい案件等がある場合に電話で確認したり、事前に現状としての課題を提示し、今後の事を想定した対応のアドバイスを頂くなど協力関係の構築に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束とは何であるか、中傷的に捉えず私達が気付き、状態・状況の把握に努める。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような事例が多く散見されるのか、実際私たちの日常に潜む事の洗い出しを行い検討しよう。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	独居老人や自立支援の困難な疾患等で利用せざるを得ない事例など、具体性を持ち都度スタッフへ情報提示・理解を深めるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>相談時からの家族間認識の差異を小さく出来るよう具体的な案件を提示し、都度Q&A式で理解してもらえよう繰り返し説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者要望は日頃の接する支援の中で確認し、それも含め家族に検討してもらい方針が定まり次第スタッフ間での共有に努める。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>「どのようなホームにしたいのか」考えをスタッフへ伝え、実現に向けて皆で取り組める段階を決めステップアップ（相互）図り向上を目指している。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は職員の努力の様子、考え方をなるべく目で見えて確認し、評価できるよう留意。資格取得をはじめ、皆で作上げる環境整備に重きを置きたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表と言う立場に恥じぬよう学びの機会に自ら参加し、広く皆で共有し納得してケアの深みにつながるよう努めている。大事な基礎知識を繰り返し職員間での研修として定着を図る。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との横繋がりも更新しながらZOOM会議や研修などを通して事業所として資質向上に向けて励んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の人となりや、家族の目・関わりのある機関の情報からすり合わせをし、アセスメントを行い、スタッフを信用していただけるよう関係性の構築から努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困り事が何であるのか（社会性・経済性等）見極め、支援の方針の合意を得て本人を取り巻く環境の一つとして協力いただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体・精神状態から出来る事、出来ない事理解をいただけるよう双方見解の不一致が生じないよう留意している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意思を尊重し「業務」として捉えないケアに向けて互いの協働を示しつつ、状態の変化に着目し続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活史へ理解を深め、関係性の機微に留意しながら現状の情報共有に繋げ繋がり続けていくよう発信を絶やささない。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の発言や、仕草、生活リズムなど把握した上で一方的に決めつけた物言いをせず考えや思いが吐き出していただけるよう声掛け、心を知るように努める。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性なども考慮し、不定期であるが席替えやテーブル設定を行い、同士の関係性の変化に注視する。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の医療機関での様子を事あるごとに確認、再相談を受けるなども支援する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活パターンを考え、話し合いの場を設ける。意向・希望に近づけるよう尋ねる。タイミング・場所等を考慮するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく本人視点の過去を傍で寄り添うことで聞き出し、経過で利用されたサービス・医療・家族視点を参考に生活史に着目するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表・アセスメント等から導き、本人の意思と身体（精神）状態かららしさの把握に努めている。職員間で報連相を基本に気付いた点を常に共有するよう留意。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の身体（精神的）、現実とのずれ、家族の理想を踏まえ職員間で個々の課題に添って意見を出し合い、出来る面の洗い出しと関係各所との助言・指導も加味し作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録にならないよう、各入居者ごとの要点・注視して欲しい点等へ配慮した記録になるよう研鑽しているが、より簡素化しチームで追及しやすい支店の方向性について検討を重ねている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予測を念頭にいった行動に努め、ニーズに合う状況はどのような状態である場合なのか、事前に機関や医療と密に相談を重ねておき、情報提示し、本人や家族が混乱しないよう地固めに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で油断できない状況が継続している事から地域との頻回な話し合いは出来ていないが、相互協力しあえる状況の理解に対してあいさつ回りを兼ねた上ですり合わせを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの医療とのかかわり、特に本人、家族が馳せる思い（重要視する点の確認）に配慮しながら状態・状況を家族、並びに医療側へ正しく伝達できるようチーム間の気付き・把握の点検を怠らない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の身体機能や一般状態等の変化に気付く事で直に報告する事で医師の診断を受ける事が出来るようにしている。身体（精神含む）状態変化において、起点を明確に、医療側に判断いただき易いよう、情報の正確性にも留意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療者（医師・看護師・栄養士・相談員等）と連携し、状態把握に努めると共に常々悪化への懸念を報告し、迅速な対応が行えるように選択肢を作るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化に向けて早い段階でご家族へ説明、意向確認しながらチームケアに取り組んでいる。終末期への想像が家族によって温度差がある為、面談を繰り返し覚悟への準備へ声掛け、状態変化に合わせた支援の具体性を都度説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時は管理者へ報告し指示を受けて対応している。コロナ禍において救命対応に関しての実践研修が行えていない。スタッフ間でも場面ごとに不安に思う事象の絞り込みを丁寧に聞き取りをすすめ、研修を組んでいきたい。感染症への研修も不十分であるので、環境整備し繰り返し身体で覚えていけるよう具体性を持った内容を検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回防災訓練を夜勤帯も想定した内容も含めて行っている。日ごろからの備蓄完備、避難訓練などにより、入居者の状態変化に合わせて優先順位等も検討を重ねる。夜勤者間では、消火器使用法、初動の動作確認等勤務内で声出し確認も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者虐待防止法も踏まえ、言葉選び、音量、域への配慮、接する目線を心に留め誇りを損ねないように優しく接する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思決定を最優先する為に、無理強いする事のないように反応を見て、行動や視線から選択肢をスタッフ側におかないよう努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴などある程度協調いただく面と、機能訓練などの面を根底にペースの中に入れこみ、過ごしやすと感じていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	スタッフにより完結が早い点であっても、本人の思いを優先し意向に添えるよう工夫。同じ洋服とかを繰り返して着まわさず季節感や整容への意識を声掛け誘導していく。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「綺麗、美味しそう」色合い・匂い等五感への配慮もしながら、嗜好を理解し、食事の形状に注意を払い自分で食べた達成感を大切にいていただく。下膳等も自ら行って溢すことがあっても本人の能力を鑑み出来る範囲で生活の実感を味わっていただけるよう見守る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食チェックし、水分に関しても病状的に必要な人に個別チェック表活用している。体調、残存機能も視野に決まった時間・量という固定概念を持たず個々の状態へ目を向ける。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内確認、自歯がある方はレベルに応じて歯磨き介助・声掛け支援の見極めをしている。全介助の方への支援はある程度行えているが、自立の方で難題（介助を嫌がる方等）がある場合は訪問歯科を利用し検診の機会を活かしながら衛生面への配慮に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の性格的な面も含め状態の見極めにおいておむつ使用等検討に入る。トイレでの排泄においても時間帯の配慮をしながら介助と自立を対応工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難のある方には定期的に腸の運動が改善するようヨーグルト等を摂っていただき様子を見ている。水分量の把握、日中の行動量（活動）、腸活への乳製品提供や下肢トレーニング等により腹圧を掛けるなど運動の幅も配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の体調を確認しながら支援。昔話や好きな事を会話をしながらリラックスしていただけるよう配慮。希望も聞き取りつつ持病との兼ね合いがある為時間への配慮、入浴時間を個々に設定できるよう検討している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣も加味、夜は寝る、朝まで寝ないと困る等業務的見解で支援してしまわないよう留意。体調に合わせて様子・バイタル等も考慮し休息を取ってもらい、良眠できるように医師に相談し薬の調整を入れながら不安の軽減に向かって都度取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情一覧を活用しながら関わるスタッフに各人の病状・薬の目的・副作用等ミーティングや書面で形に残る工夫をし、生活支援で必要な点まで目を向けるよう勉強を繰り返している。特に、悪化した場合の想定を注意しながら変化に着目出来るようスタッフ間で声掛け・気付きを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「これだったら出来る」「楽しい」「やって喜んでやくれたら次もしてあげたい」達成感や喜びの出来事など表情や行動が明るい兆しとしての成功例等をスタッフ間で出し合い、本人様に無理強いする事の無いよう誘導していくように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍で外出は外診以外はとても困難である。中庭の散歩等を通して外の空気を感じつつ現状は厳しいが外出の叶う時期がいざ来た時に足が役に立たない等体力低下による意欲が萎える事が無いよう日々の状態維持を心掛けている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>実際、本人様にお金の管理をさせているケースはほぼ無いが家族とのやり取りで必要と本人が判断をする（慶弔への要望）事例がある場合は面会時に財布から本人の思う通りの事をさせるために見守りをする。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙を書きたいという自発的な思いを口にする方は現状おられないが時柄葉書など書く環境を整えたり電話したいと強い要求をする方（難聴）で、取り次ぎが必要と覚える方へ電話動画を繋げるなど家族とも状況理解をいただく機会を作っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節・時間帯における採光への配慮、尿臭等の消臭を留意する。福祉用具、居室等入居者様の使用頻度の多い所から多目的共用空間まで広範囲の設備の配置、使用勝手の良さ、音量等にも気を配るよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人方の生活史を鑑み、入居者同士の相性も前提に家具・設備の環境を整備し「読書を明るい場所で1人になりたい」「キッチンの様子が気になる」等本人との会話や日常の過ごし方から居場所の提供を支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で馴染みのある品（家具や衣服）を持ってきていただいたり生活の変化に応じてこれまでの本人らしさを思い出せるような物を持ち寄っていただき、使い勝手の良い安心出来る空間であれるよう留意している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や食卓への記名・プライバシーに注意しながらご本人に生活の中で行動・判断の迷いが少なくあれるように言動から配慮すべき点の洗い出しを都度行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない